

能代市学校給食センター 職員を懲戒処分 徴収事務地帯

能代市教育委員会は15日、学校教職員からの給食費負担金の徴収などを怠り、事務を遅滞させたとして、2025年度に学校給食センター所長補佐だった50代男性職員を戒告の懲戒処分とした。管理監督責任を問い、当時の学校給食センター所長を訓告、学校教育課長を嚴重注意とした。

市教委によると、男性職員は25年度に市内13校の教諭ら約40人に対し、給食費負担金の納付書の送付を怠った。各学校から4月に届くべき納付書が届いていないとの報告を複数回受けていたが、一部を除き、その後も送付しなかった。今年3月になっても納付書が送られていない学校があることを市教委が把握し、不適切な事務処理が発覚した。

福岡市長「和食と合わず」給食で牛乳やめ 栄養基準下回る

福岡市は4月、市立小中学校などの給食で月1回、牛乳の提供をやめ、別の飲料に切り替える取り組みを始めた。15日昼、一部の学校で緑茶が出された。「牛乳は和食と合わない」(高島宗一郎市長)などの意見を踏まえた対応。1食分のカルシウム、カロリーともに市の基準を下回った。

15日の給食では、牛乳の代わりに「小魚アーモンド」を献立に入れた。ただ1食分のカルシウムは211ミリグラム(市の基準は450ミリグラム)。カロリーは基準値より約1割低かった。市の担当者は「一定の期間で十分な栄養量を摂取できるように調整していく」と話した。市は昨年度から、給食の質の向上を図る「もっとおいしい給食プロジェクト」を実施。外部の有識者と意見交換してきた。高島市長は昨年10月、市教育委員会に対し「別の食材でカルシウムを摂取できる方法を模索してほしい」と求めた。

(令和8年4月16日(木)秋田さきがけ新聞より一部抜粋)